日本海新聞　令和元年５月２１日（火）

「すごいこと」担い手笑顔

麒麟獅子舞　日本遺産認定

因幡・但馬　圏域に喜び広がる

日本海の風が育んだ絶景とその地域で親しまれてきた麒麟獅子舞をテーマにした物語「日本海の風が生んだ絶景と秘境～幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地『因幡・但馬』」が、文化庁から日本遺産認定を受けた20日、兵庫・鳥取県境にまたがる7市町の認定圏域では、関係者らに喜びの声が広がった。（浜田匡史、松本妙子、西村和晃）

日本海から吹く強烈な季節風によって形づくられた景観や伝統芸能・麒麟獅子舞（コラージュ）

認定された物語を構成する文化財は、鳥取砂丘や香住海岸といった自然景観から余部鉄橋のような鉄道遺産、林業景観やそれに伴う建築物まで各市町から選ばれた31種類。伝統芸能の麒麟獅子舞は、圏域全体を象徴する無形文化財として組み込まれている。

現在でも舞われている麒麟獅子舞は鳥取県内が12８件、兵庫県内が新温泉町で9件、香美町で1件。

鳥取県内で95の保存会が加入する「無形民俗文化財『因幡の麒麟獅子舞』連合保存会」の宮橋吉美会長（70）は「後継者の励みになるし、麒麟獅子を知らない若い世代へのPRになる」と認定を歓迎。麒麟獅子の修復の第一人者としても知られる中山勘治さん（95）＝鳥取市＝は「こんな日が来るとは思わなかった。神社ごとに違う獅子の顔を見比べてほしい」と涙する。

伝統継承に奮闘する地元高校生にも喜びが広がった。新温泉町では、浜坂高の麒麟獅子舞サークルが宇都野神社麒麟獅子舞の保存と継承に取り組んでおり、22人の部員をまとめる中村眞弥部長（17）は「認定はすごいことだし、担い手としてうれしい」と笑顔。「今まで以上に受け継いでいく責任が大きくなった。伝統を吸収し、技術を高めていきたい」と意気込む。

激しい季節風による荒波が作り出した断崖にあり、平家の落人伝説で知られる香美町香住区余部の御崎集落からは、毎年1月に開かれる「百手の儀式」が構成文化財に選ばれた。若者らが源氏に見立てた的に矢を放つ儀式は歴史ファンから人気がある。門浦光吉区長（65）は「世帯数が減少する中、注目されることで訪れる人がさらに増えれば、国道から集落までの道路改善の機運も高まる」と期待する。

麒麟獅子舞の日本遺産認定を喜ぶ西村町長と浜坂高生＝20日、新温泉町役場

10地区保存会立ち上げも

麒麟獅子舞の日本遺産への認定を受け、美方郡は喜びに沸いた。新温泉町は20日、同町役場で祝賀セレモニーを行った。

郡内で麒麟獅子舞が伝わるのは、香美町香住区鎧と、新温泉町内の9地区（居組、浜坂、三尾、諸寄、福富、和田、七釜、栃谷・田君、千谷）。

新温泉町では、北前船の船主集落の認定に続き日本遺産は二つ目。今年2月には、日本農業遺産に、2町が共同申請した美方地域の但馬牛の生産システムが認められた。

相次ぐ認定を地元も歓迎。新温泉町役場であったセレモニーでは、役場職員や住民が集い、日本遺産認定を祝福。浜坂高の麟獅子舞サークルの部員3人が猩猩と獅子舞姿で駆け付け、花を添えた。

香美町の浜上勇人町長は「新しい令和の幕開けとともに認定されうれしい。麒麟のまち圏域の市町と一緒にストーリーを生かして魅力を高めたい」とコメントを発表した。

今後は、10地域による但馬麒麟獅子舞保存会（仮称）の立ち上げや映像の常時展示を検討。舞い手不足や継承などの課題を共有し、対策に取り組むという。（松本妙子）